

メディアからみた「食の安全」

産経新聞文化部
平沢裕子

自己紹介

- 大学ではフランス語を専攻←文系です！←新聞記者の8割は文系
- 医療系出版社→産経新聞社→長野支局→東京本社社会部(教育・宗教など担当)→大阪本社社会部(医療・大学担当)→東京本社文化部(生活面担当)←今ココ

新聞の生活面とは

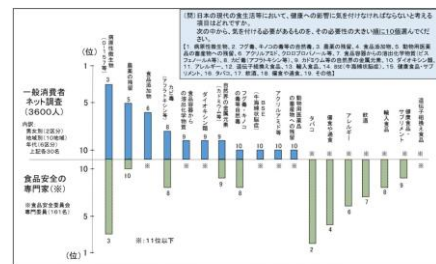
- 衣食住など生活周り全般の記事を掲載



- お掃除の仕方からTPPの家庭への影響まで。あらゆることが「生活」です！

消費者と専門家のギャップ①

食品安全委員会平成27年調査

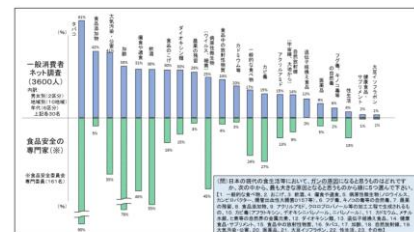


消費者と専門家のギャップ①

- 健康への影響で気を付けるべきと考えるものを一般消費者と食品安全委員会委員に、19項目から10位まで順位つけてもらった。
- 食品安全の専門家が10位以内に選んだのは「タバコ」「偏食や過食」「病原性大腸菌」。
- 一般消費者は1位「病原性大腸菌」、2位「農薬の残留」、3位「食品添加物」。
- 残留農薬、添加物は専門家は選ばず

消費者と専門家のギャップ②

食品安全委員会平成27年調査



消費者と専門家のギャップ②

- ガンの原因になると考える項目23を示し、5位まで順位をつけてもらった。
- 一般消費者は「添加物」「農薬の残留」「食品のこげ」。
- 食品安全の専門家は「加齢」「飲酒」「偏食や過食」。
- 消費者の嫌われ物ワースト3→遺伝子組み換え食品、農薬、添加物。

残留農薬は危険？



- 2008年、中国産冷凍ギョウザ事件を受けた記事。市販の食品には残留野菜や添加物がいっぱいだから危険！除毒して自衛しなくちゃ。
- (例-トマトは農薬が残留しているから必ず湯むき。ハムは80度の湯につけてから食べる,etc...)

体内のミネラルバランス調べて健康に？



- 毛髪検査で体内のミネラルバランスを調べて健康になる！→本当？
- 実際は体内のミネラルバランスを測っても健康チェックになりません
- アルミニウムの業界から見出しに訂正要求

照り焼きのブリ6000食を廃棄



- 滋賀県野洲市の給食センターで、ブリを照り焼きに調理していたところ、5〜6切れにゴム状の異物を発見。寄生虫のアニサキスの可能性を疑い、6000切れを全廃棄した
- (写真は野洲市給食センター提供)

記事掲載の壁

- 「食」にはだれもが一家言あり。
- 「中国産は絶対食べない」→スーパーでは買わないという意味？ コンビニ弁当やファミレスの食事はOK。
- 求められるのは「消費者に近い感覚」？
- 科学的な正しさより、情緒に訴えかけた記事の方が高い評価を受ける傾向。
- 社会の木鐸としての役目は？

前日に差し替え要求のあった記事

→ コメにヒ素でNGに



日本の新聞の特徴 (唐木2016)

欧米の新聞	日本の新聞
① 高級紙(ジャーナリズム) ・政治・経済文化の記事と解説が中心 ・理論的、科学的分析を重視した重厚な記事で、政治的中立は求められない ・知識階級を対象にする ・タイムズ(英)、ルモンド(仏)、NYタイムズ(米)など。発行部数は少ない ② 大衆紙(エンターテインメント) ・事件やスポーツや芸能記事が中心 ・大衆迎合のセンセーショナルな記事 ・一般大衆が対象 ・デーリーミラー(英)、USAトゥデイ(米)など。発行部数は多い ***放送法 第四条 二 政治的に公平であること。四 意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること。	○主要5紙などすべてが「一般紙」 ・明治時代は高級紙があったが、その後消滅し、大衆紙だけが生き残った ・特徴は、どこからも文句が出ない記事が多いこと。そのために →政治的中立を装う(国民が求める) →対立する意見は両論を併記する ・ただし、新聞倫理綱領にそのようなことは書いてない*。政治的公平などを定める放送法第4条の影響** ・そして、記者個人の知識、立場や信条で記事が変わり、世論に流され、社としての所信は見られないことが多い *新聞倫理綱領「正確と公正」:報道は正確かつ公正でなければならず、記者個人の立場や信条に左右されてはならない。論評は世におもねらず、所信を貫くべきである。

13

日本のマスコミの特徴

- ・「マスコミ」の2つの顔
 ジャーナリズム (TPP・米大統領選・・・)
 エンターテインメント(SMAP・ベッキー・・・)
- ・テレビのワイドショー、雑誌記者はエンターテインメント+センセーショナルを狙う。
- ・新聞にも同じ傾向が見える
 科学的事実より感情に訴える物語(無農薬栽培話)

14

メディアバイアス

●危険については報道

例) 過去に大きく報じられた添加物の発がん性や農薬による健康被害

↓
「〇〇は安全になりました」という記事はない

↓
消費者には添加物や農薬は危険なまま

ストーリー性を重視

- ストーリー性(意外性と感情移入)がある少数派の意見や行動がニュースに

例) 東日本大震災後に放射能を恐れ、東京から沖縄へ移住した人の話

→ ストーリー性はある。一方、東京が危険なわけではないことを明確に解説しない。その結果、「東京も危険なんだ」という印象を与えることも

16

両論併記

① 実際は9対1の意見でも、両論併記されることで1対1と対等な意見の印象を与える

② 科学的に対立している事柄の場合、2人の科学者がそれぞれに正しいと考えていることを主張。消費者にはどちらの言い分が正しいのか理解できない

①両論併記による誤解

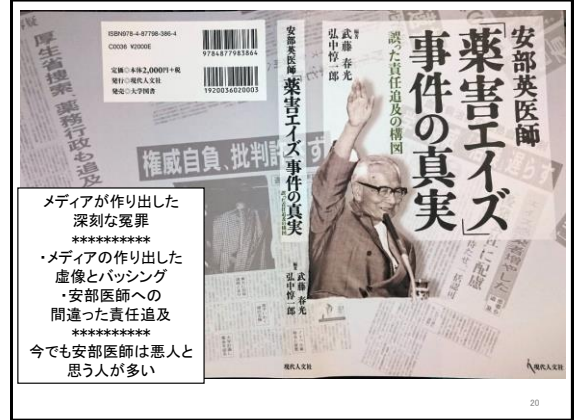


- ・毎日新聞、福島の子供の甲状腺がんを伝える記事
- ・過剰診断VS被曝影響
- ・甲状腺がんの専門家の9割以上は「過剰診断」と指摘している
- ・記事を読んだ人はどう思う？

②両論併記による誤解

- BSEの全頭検査の是非をめぐる問題
山内一也・東大名誉教授「全頭検査＝世界的に最も厳しい安全対策が実施」
VS
小澤義博・国際獣疫事務局名誉顧問「安全対策は特定危険部位の除去で」
●記者も安全対策の意味を理解せず。混乱した記事が多かった

19



メディアが作り出した深刻な冤罪

・メディアの作り出した虚像とバッシング
・安部医師への間違った責任追及

今でも安部医師は悪人と思う人が多い

20

「薬害エイズ」事件の事実 (唐木2016)

検察・メディアの主張	事実(判決)
① 安部医師は血液製剤がエイズを引き起こす危険性を認識しながらも患者に投与させた。安部医師は血液製剤の輸入会社から多額の金員を受け取り、危険性を故意に見逃した	① 当時は血液製剤からエイズに感染する危険性を認識していた専門医はいなかった。だから、危険性を故意に見逃すはずはない
② 厚労省郡司課長は米国でエイズウイルスで汚染した可能性がある血液製剤が回収されたことをエイズ研究班に伝えなかった	② 郡司課長が研究班にこのことを伝えていたことが議事録で証明された
③ 菅直人厚労大臣は「隠されていた郡司ファイル」を発見し、その内容から、厚労省が業界の圧力で血液製剤の使用を続けたと報道された	③ ファイルは倉庫に保管され、隠されたものではなかった。その内容は技官の個人メモで、厚労省の方針とは無関係だった
④ 安部医師を薬害エイズを引き起こした犯人に仕立て上げることが検察をメディアの主目的だった	④ 世界中で血液製剤によるエイズ感染が起こっていたが、医師個人に責任があると追及されたのは日本だけだった

警察・検察とメディアの癒着による冤罪は「松本サリン事件」も同じ

21

報じられなかった社会問題

「ハンセン病の隔離政策」

- 昭和6年に癩予防法制定。患者を強制隔離
- 昭和18年に米国で「プロミン」開発。治療可能な病気に
- 昭和28年のらい予防法でも強制隔離継続
- 平成8年にらい予防法廃止
●廃止までの60年間、新聞がどれだけ隔離政策を批判したか。廃止まで、ハンセン病は忘れられた病気だった。ジャーナリズムの責任は？

22

報じられなかった社会問題

●なぜハンセン病は忘れられた病気なのか？



Wikipediaから

- ・適切な治療を受けない場合、皮膚に重度の病変が生じる
- ・容貌の変化と不治の病という誤解が恐怖を招き、差別の対象になった
- ・ほかにも差別は多い・同和問題、少数民族問題、ヘイトスピーチ・・・
- ・差別の解消が難しいのは、多くの人が見て見ないふりをするから。これを取り上げるのがメディアの役割だが・・・

23

映画「スポットライト」

- 神父による児童への性的虐待を隠蔽するカトリック教会の間に挑む記者たちを描いた映画

取材先「これを記事にしたら誰が責任をとるんだ」→記者「では、記事にしない場合の責任は？」

- こんな台詞、言ってみよう！

24

情報を受ける側の問題も

「危険」という情報と「安全」という情報がある
自分の身を守るためにどちらを信じるべきか？

答えは明白！

「危険」という情報を信じて用心する！

- ➡ 十分な知識を持たない人は、とりあえず、
「危険」という情報を信じる
とくに子供を持つ母親はその傾向が強い

情報の偏り

「化学物質は怖い！」という情報の発信者は？
本や講演でもうけている人たち
無添加・無農薬製品でもうけている人たち
情報を真に受けてこれを拡散する人たち

VS

「正しく使えば安全」という情報の発信者は？
誰かいますか？

情報の大きなアンバランス！

確証バイアス

「添加物は怖い」と思う人がほしい情報は？

- ①「添加物は怖くない」という情報
- ②「添加物は怖い」という情報

正解は「添加物は怖い」という情報

人間は自分の先入観を補強する情報をほしがると
先入観と違う情報は拒絶する → 確証バイアス

「添加物は怖い」という本は売れる
「添加物は怖くない」という本は売れない

正しい情報を社会へ！

- ・さまざまな情報が氾濫する現代は

「情報戦争」

の渦中にあります。

- ・科学的に正しい情報が伝わらないのは、情報戦争に負けているから。

28

情報戦争に負ける理由 まとめ①

「安全情報」を信じてもらうことは難しい！

信じてもらう条件は

- ① 情報の発信者が信頼されること
- ② 「危険情報」の10倍量を発信すること
- ③ 多くの人が拡散してくれること
- ④ メディアが大きく取り上げること

➡ どれも難しい！ それではどうする？

29

情報戦争に負ける理由 まとめ②

- ・メディアを動かすためには、みなさんが良いと思った記事を書く記者を応援してください！
→読者サービスに電話やメールで「よかった」と伝えるのが効果的です
- ・ダメな記事には、記者に直接「この内容はおかしい」と知らせてあげましょう
- ・新聞社も民間企業です。読者の声を元に記事の善し悪しを判断することも多いです。

30

安全かどうかは科学的に考える



唐木英明・東大名誉教授
 ・安全は科学的根拠で決まる
 ・安心は「安全という言葉に信頼できるのか」で決まる

↑

・政治、行政、企業、メディアは信頼されているか？
 ・国民は科学的根拠を理解する努力をしているか？
 ・メディアは理解を助ける努力をしているか？

31

ご静聴ありがとうございました

・本日の講演の資料作り、内容について、唐木英明東大名誉教授にアドバイスをいただきました。ご指導いただいたことを深く感謝いたします